

大学評価・学位授与機構 国際連携企画室

平成 27 年度事業実施報告

平成 28 年 3 月 31 日
国 際 連 携 企 画 室

I. はじめに

大学評価・学位授与機構（以下「機構」）は、第 3 期中期目標（平成 26～30 年度）を踏まえた以下の国際連携事業に関する主要方針に基づき、近年の高等教育を取り巻く国際的な状況を踏まえながら、海外の高等教育の質保証に関する情報を収集し、調査研究を行い、その成果を国内外に発信している。さらに、海外の質保証機関等との積極的な情報交換や密接な連携による国際的な質保証活動を行っている。

<国際連携事業に関する主要方針>

- ・ 国内外の質保証機関との連携による我が国の評価制度全体の改善と高等教育の国際的な信頼性を高めるための活動を行う
- ・ 大学等との連携による大学等における質保証への支援

機構に設置された国際連携企画室は、平成 24 年度よりアクションプランを毎年策定し、研究開発部教員および国際課職員が協働し、国際連携活動を推進している。平成 27 年度においては、以下の 4 つの柱を設定し、柱ごとに活動計画をまとめ、各種活動を実施した。実施にあたっては、毎回の企画室会議において、方針等を協議するとともに、実施状況について確認を行った。また、企画室メンバーや国際課職員が収集した国際的な質保証動向等に関する情報や資料は、企画室メンバー間で共有し、機構内外に発信した。

平成 27 年度国際連携企画室アクションプランの柱

- (1) **海外の高等教育および質保証に関する情報発信（国内発信）**（実施報告 P 2-7）
- (2) **日本の高等教育および質保証に関する情報発信（海外発信）**（実施報告 P 8-10）
- (3) **共同プロジェクトを含めた海外の質保証機関やネットワークとの連携事業の実施**
（実施報告 P 11）
- (4) **国際連携にかかる戦略的・重点的調査研究**（実施報告 P 12）

Ⅲ. 各テーマにおける実施内容

(1) 海外の高等教育および質保証に関する情報発信（国内発信）

アクションプラン

平成 27 年度は、大学等における質保証活動への支援、および我が国の評価機関等における国際情勢を踏まえた高等教育の質保証活動に資するため、海外の高等教育や質保証に係る制度情報や改革等の動向について情報を収集、整理し、高等教育関係者へ提供する。

事業実施総括

活動詳細 >> P 5

(ア) 海外の高等教育質保証動向等に関する情報収集、整理および提供

海外の高等教育や質保証動向について、次頁の「別表」に掲げる調査項目を主眼に置きながら情報収集し、ウェブサイトを中心に得られた情報を記事等にして提供した。（大学の内部質保証支援および国際的な共同教育プログラムの質保証の観点を意識）

インフォメーション・パッケージに関して、諸外国の高等教育分野における質保証システムの概要の豪州（第 2 版）および米国（第 2 版）を刊行するとともに、アジア地域の高等教育分野の質保証システムに関するブリーフィング資料として香港およびタイを作成、台湾を更新し、国際連携ウェブサイトに掲載した。

また、海外の高等教育や質保証動向の情報収集のため、国際会議・セミナーや国内会議等へ参加した。

国際連携ウェブサイトの充実に向けた取組みとして、ウェブサイトのトップページの簡素化や閲覧しやすさの改善のため、同ウェブサイト的大幅な改訂を行った。

インフォメーション・パッケージや国際連携ウェブサイトの取組みを国内外の関係者に広く発信するため、広報用チラシを随時更新し、機構が主催したフォーラム・公開研究会や、高等教育関係者の集まる会議等で配布した。また、メールマガジン『海外高等教育質保証動向ニュース』を創設し、高等教育関係者を中心とした配信希望者に対し、同ウェブサイトが発信している海外の質保証動向記事や刊行物・主催イベントの情報について、毎月メール配信を行った。

国際連携ウェブサイトに関するその他の広報活動として、平成 26 年度から継続して、同ウェブサイトが発信している海外の質保証動向記事のうち、主なものを抽出し、教育学術新聞に定期掲載を行った。

「別表」平成 27 年度における情報収集項目（国・地域別）

◎：重要度の高い事項 ○：キャパシティ次第で取り組む事項

国・地域名	テーマ
中国	◎「高等教育の質の全面的向上に関するガイドライン」の実施状況（機関評価、プログラム認定、大学院教育の質改革） ○CBQAN の活動動向 ◎中外共同運営教育評価の動向
韓国	◎大学機関別評価認証の動向（評価結果、優秀事例） ◎大学の国際化評価（留学生受入れ・管理力量認証制（IEQAS））について ○ONIC 設立に向けた活動動向
ASEAN 諸国	◎ASEAN 域内における質保証枠組み・資格枠組み構築の動向 ◎AIMS を通じた大学間交流の動向 ○質保証人材育成活動（評価者研修プログラム等）の動向 ○ASEAN 共同体設立に係る各国高等教育の動向
マレーシア	◎MQF レビューについて
インドネシア	◎ASEM（特に ASEMME5）の動向（※ASEM 事務局＝インドネシア） ○分野別質保証機関設置の動向
タイ	◎タイの質保証システムの概要 ○タイ高等教育改革の動向
ベトナム	◎ベトナムの質保証システムの概要（レーティング制度による機能別分化を含む） ○ベトナム高等教育の国際化に向けた取組み
台湾	◎第 2 期プログラム評価活動の動向 ○台湾高等教育の国際通用性の向上に向けた取組み
香港	○質保証機関統合に向けた動向 ○Credit Accumulation and Transfer (CAT)について
欧州	◎ECA 等による欧州の大学が提供する共同教育プログラムへの質保証の取組み ◎EQAR や ENQA による国境を越えた質保証活動に関する動き ○欧州ボローニャプロセスの政策議論 ○ASEM 動向 ○ENIC-NARIC によるプロジェクト
英国	◎高等教育における TNE を巡る動き（特に QAA の質保証について） ◎QAA : HER+ について（2014 年に完全移行） ○HEFCE 質保証事業入札の動き
オランダ	(NVAO) ◎第 2 サイクル評価体制の変更点と第 3 サイクル評価の検討状況 ◎国際化評価手法・結果等の動向 (EP-Nuffic(旧 Nuffic)) ○EP-Nuffic 発足に伴う新たな事業組織体制 ◎大学の国際化支援やジョイント・ディグリー、モビリティ関連のプロジェクト
フランス	◎HCERES 発足に伴う新たな評価および組織体制
ドイツ	◎高等教育質保証システム（アクレディテーション制度等）の動向 ○DQR の活用
米国	◎高等教育法改正に関する動き ○地域機関別評価機関の学習成果評価の取組み・新たな基準の動向 (CIQG) ○国際的な質保証への取組
豪州	(TEQSA) ○アクレディテーション基準および実施状況

(イ) 国際連携ウェブサイトの改善・充実、広報活動

国際連携ウェブサイトについては、閲覧者にとっての見易さ・利便性を向上させるため、同ウェブサイトのデザインおよび構成の全面的な見直しを実施した。特に海外の質保証動向記事については、独立した**新たな海外動向ウェブサイト「QA Updates-International」を立ち上げた**。※国際連携ウェブサイトおよび関連のウェブサイトの合計アクセス数は、**年間 206,016 件（月平均 17,168 件）**となり、前年度比約**14.1%増**となった。

＜国際連携ウェブサイトおよび関連のウェブサイト 各年度月平均アクセス件数＞

平成 24 年度：5,907 件、平成 25 年度：9,649 件、平成 26 年度：15,038 件、**平成 27 年度：17,168 件**

＜QA Updates-International 各年度月平均アクセス件数＞

平成 27 年度：1,175 件（平成 27 年 6 月～平成 28 年 3 月）

＜共同教育プログラムの質保証 ウェブサイト 各年度月平均アクセス件数＞

平成 26 年度：338 件（平成 27 年 1～3 月）、**平成 27 年度：201 件**

ウェブサイトや概要資料の情報発信媒体の認知度を高めるため、主な広報活動として各種会議等でのチラシ配布による広報のほか、教育学術新聞への海外の質保証動向記事の定期掲載を行い、平成 27 年度中に 6 回掲載された。また、海外高等教育質保証動向ニュース（メルマガ）の配信を平成 27 年 7 月に開始し、平成 27 年度中に毎月配信（計 9 回）した。また、国際連携ウェブサイト内にメルマガの登録フォームを開設した。

(ウ) フォーラムやセミナー開催による情報提供

平成 27 年度は、「知の質とは－アカデミック・インテグリティの視点から－」をメインテーマに大学質保証フォーラムを開催した。

また、海外の質保証に関連する取組みについて、国内の関係者との意見交換の場を設けて理解を深め、我が国の質保証活動の改善につながることを目的として海外関係者を招き、ドイツにおけるシステム・アクレディテーションの制度概要や導入の背景についての講演会、豪州における質保証機関の概要やリスクベース評価についての講演会およびタイにおける外部質保証システムの傾向と変遷についての講演会を実施した。



ドイツ GAC による講演会
（平成 27 年 10 月実施）



タイ ONESQA による講演会
（平成 28 年 3 月実施）

ウェブサイトを通じた質保証動向記事等の発信

【1-ア）海外の高等教育質保証動向等に関する情報収集、整理および提供】

海外の高等教育や質保証の動向に関して収集した情報については、海外動向発信サイト「QA Updates-International」に、海外の動向記事として適時掲載し、国内向けの情報発信基盤の強化を図った。平成 27 年度の動向記事掲載件数は 111 件であった。（掲載件数の内訳は下図参照。）



国際的な共同教育プログラムの質保証にかかる情報については、「共同教育プログラムのための質保証」ウェブサイトにおいて随時発信を行っている。平成 27 年度は、新規に 5 件の情報発信を実施した。

>> [共同教育プログラムのための質保証サイト](#)

インフォメーション・パッケージの作成・発信 – 各国の質保証制度にかかる基本情報 –

【1-ア）海外の高等教育質保証動向等に関する情報収集、整理および提供】

インフォメーション・パッケージにおける新たな刊行物として、平成 27 年 4 月に、「諸外国の高等教育分野における質保証システムの概要 豪州（第 2 版）」および平成 28 年 1 月に、「諸外国の高等教育分野における質保証システムの概要 米国（第 2 版）」（右：同刊行物の表紙）を刊行した。

>> [諸外国の高等教育分野における質保証システムの概要 豪州掲載ページ](#)

>> [諸外国の高等教育分野における質保証システムの概要 米国掲載ページ](#)

また、アジア地域における高等教育の質保証に関して、ブリーフィング資料を新たに作成し、国際連携ウェブサイトにて公開した。平成 27 年度は、香港（平成 27 年 10 月）およびタイ（同年 11 月）のブリーフィング資料（右：同刊行物の表紙）を掲載した。また、台湾のブリーフィング資料を更新した。（同年 9 月）

>> [ブリーフィング資料掲載ページ](#)

さらに、欧州高等教育圏における質保証の基準とガイドライン（ESG）の改正に伴い、当資料の日本語版（平成 28 年 1 月）を作成・掲載した。なお、この日本語版は、ENQA のホームページにも日本語版としてリンクが付記された。

<http://www.enqa.eu/index.php/home/esg/>

>> [欧州高等教育圏における質保証の基準とガイドライン（ESG）掲載ページ](#)

このほか、インフォメーション・パッケージや国際連携ウェブサイトの取組みを国内外の関係者に広く発信するため、



広報用チラシを随時更新し、機構が主催・企画実施したフォーラムや高等教育関係者の集まる会議で配布した。

国際連携ウェブサイトの充実に向けた取り組み

【1-イ）国際連携ウェブサイトの改善・充実、広報活動】

●ウェブサイトの改訂

国際連携ウェブサイトについては、平成 26 年度に策定したデザイン改訂案に基づき、トップページのデザインや閲覧しやすさの改善のため、同ウェブサイトの大幅な改訂を行った。また、海外の高等教育質保証の最新動向を記事にして紹介する海外動向発信サイト「QA Updates-International」を公開した（右：トップページ図）。国際連携ウェブサイト内では海外高等教育質保証動向ニュース（メルマガ）配信登録フォームを設け、メルマガ購読手続きの簡素化を図った。

国際連携ウェブサイト内の国際化評価に係るカテゴリを新規に作成し、各国の国際化推進を目的とした国際化評価や支援サービス事例の情報発信を行った。また、「キャンパス・アジア」モニタリングのウェブページ内に、優良事例集（英語版）を発信した。



QA Updates-International
トップページ

●教育学術新聞への質保証動向の定期掲載

QA Updates-International に発信している海外の質保証動向記事のうち、主なものを抽出し、教育学術新聞に定期掲載を行った。

●海外高等教育質保証動向ニュース（メルマガ）の月次配信

国際連携ウェブサイトおよび QA Updates-International に発信している海外の質保証動向記事や刊行物・主催イベントの情報について、平成 27 年 7 月より毎月メール配信を行った。

●大学質保証フォーラム

平成 27 年 7 月 27 日（月）に、平成 27 年度大学質保証フォーラム「知の質とは—アカデミック・インテグリティの視点から—」と題し、一橋講堂にて開催した。プログラムの前半では、「アカデミック・インテグリティと大学・社会」と題し、濱口道成名古屋大学総長顧問、鈴木典比古国際教養大学長、野上智行機構長による鼎談を行い、大学運営や、教育・研究の経験より、師弟関係の重要性や、幅広い視野と良心を備えた研究者の育成を可能とする環境整備の必要性等に話題が集まった。後半のパネルディスカッションでは、5 名のパネリストより、日本と英国におけるアカデミック・インテグリティへのアプローチについて、その理論と実践の観点から事例紹介され、なぜそれが不正なのか、質を高めるために何をすべきか、当事者である大学の構成員が自主的・自発的に考えていくべきかといった意見が交わされた。



閉会後に参加者アンケートとして、「アカデミック・インテグリティ」に適した訳語（日本語）を問う設問を用意したところ、学問的良識、作法、品格・品位、誠実、高潔など様々な意見が寄せられた。

●大学質保証フォーラム公開研究会

平成 27 年 7 月 28 日（火）には上記フォーラムに関連した海外事例を取り上げた公開研究会を実施した。午前の部では、サウサンプトン大学の Bruce Macfarlane 教授がアカデミック・インテグリティの概念モデルについて詳しく解説を行った。また、参加者との議論では、学問分野や国によって、具体のとらえ方やルールが異なる点も明らかになり、その奥深さも共有された。午後の部は、英国の評価機関である高等教育質保証機構（QAA）より Tim Burton 氏を迎え、同国の質保証活動におけるアカデミック・インテグリティの捉え方や導入事例が紹介された。

●ドイツ GAC Olaf Bartz 博士による講演会

機構とドイツアクレディテーション協議会（GAC）は、平成 27 年 10 月 7 日（水）に当機構竹橋オフィスにて覚書調印式を挙行し、その後、GAC の Olaf Bartz 博士による講演会を実施した。Bartz 博士からは、ドイツの高等教育における質保証制度に関して、とりわけシステム・アクレディテーションの制度概要や導入の背景等の紹介があったほか、学生モビリティの現状や今後の質保証における課題等についても紹介があった。

●豪州 TEQSA シニアケースマネジャー Julian Davis 氏による講演会

機構と豪州高等教育質・基準機構（TEQSA）によるスタッフ交流プログラムの一環として、平成 28 年 2 月 3 日（水）に機構竹橋オフィスにて、TEQSA の評価実務を担うシニアケースマネジャーの Julian Davis 氏による講演会を開催した。TEQSA が行う規制・監督活動についてリスクベース評価を中心に豪州の高等教育の状況を交えた説明があり、参加者からは活発な質疑応答があった。

●タイ ONESQA 局長 Channarong Pornrungroj 氏による講演会

機構とタイ全国教育水準・質評価局（ONESQA）は、平成 28 年 3 月 3 日（木）に機構竹橋オフィスにて覚書調印式を挙行し、その後、Pornrungroj 局長による講演会を開催した。講演では、タイの外部質保証制度の傾向と変遷に関して、基本的指標・機関の特徴を示す指標・社会的責任を示す指標からなる 3 分類の KPI、評価活動の 3 方針、149（One for Nine）プロジェクト、次期評価活動の方向性について紹介があった。

（２）日本の高等教育および質保証に関する情報発信（海外発信）

アクションプラン

平成 27 年度は、我が国の高等教育の質保証に係る国際的な信頼性を高めるうえで、機構は内外の質保証機関や評価機関と様々な連携協力をすすめることとしている。これらの活動に伴い、機構の行う事業のみならず、日本全体としての高等教育の質保証システム等の情報について、英文により精査し、海外の質保証関係者に対する情報発信を強化する。

事業実施総括

活動詳細 >> P 8-10

（ア）日本の高等教育および質保証に関する情報発信の整備・強化

「高等教育に関する質保証関係用語集:Glossary」第 4 版の電子版を作成したほか、大学機関別認証評価において自己分析をする際の観点およびその留意点が記載された「自己評価実施要項 留意点」（抜粋）の英語版を作成し、ウェブサイトで公開した。

また、海外で開催された国際会議等において、機構から発表を行い、日本における高等教育質保証の取り組み等について情報発信を行った。

さらに、HKCAAVQ 設立 25 周年記念誌や、APQN 発行冊子など、海外の機関誌等への寄稿を行った。

活動詳細 >> P 10

（イ）機構英文ウェブサイトの改善・充実

機構事業紹介 PPT「Overview of NIAD-UE's Works」および「キャンパス・アジア」モニタリングの優良事例集の英語版を英文ウェブサイトに掲載した。

日本の高等教育および質保証に関する情報発信の整備・強化

【2-ア）日本の高等教育および質保証に関する情報発信の整備・強化】

高等教育に関する質保証関係用語集の改訂に関し、高等教育関係者から寄せられたアンケート 608 件を参考にするとともに、近年の高等教育政策の議論で使用される用語や新たに導入された制度等に対応し、既存収録用語の解説を大幅に見直した。その結果、40 語を新規用語として追加した。また、評価に関する用語の説明や、認証評価と国立大学法人評価の違いを説明した付録を新たに作成した。最終的にこれまでで最多の 186 語を収録した第 4 版を作成し、電子版と冊子体を平成 28 年 4 月に刊行する準備を整えた。

また、大学機関別認証評価 において自己分析をする際の観点およびその留意点が記載された「自己評価実施要項 留意点」を抜粋した英語版として、'Practical Instructions for Self-Assessment'を作成し、機構ウェブサイトにて掲載した。

>> ['Practical Instructions for Self-Assessment' 掲載ページ](#)



高等教育に関する
質保証関係用語集 第 4 版

国際会議・セミナーでの機構からの発表実績

【2-ア）日本の高等教育および質保証に関する情報発信の整備・強化】

<H27 年度機構からの発表実績と発表タイトル>

日程・場所	会議名称	発表者	発表テーマ
H27.3.31-4.3 米国	INQAAHE2015 隔年次総会	金特任准教授	・A Study on International Collaborative Programs between Japan and Asian Countries: Importance of Developing a Checklist
H27.9.3 豪州	第 4 回日豪間ハイレベル教育政策対話	川口顧問	・Internationalization of Quality Assurance for Higher Education in Japan
H27.9.3 フィリピン	第 3 回 APT 質保証専門家会合	金特任准教授	・Towards the development of a checklist for international collaborative programs between Japan and Asian Countries
H27.10.25 中国	中国大学院国際教育フォーラム (CDGDC 主催)	野上機構長	・Internationalization of Higher Education with Quality Assurance in Japan
H27.12.4-5 台湾	HEEACT 2015 Conference and Forum	川口顧問	・Quality Assurance of Higher Education in the Next Decade ・Institutional Thematic Assessment Theme C: Internationalization of Higher Education
H28.3.6-10 カナダ	2016CIES (国際比較教育学会) 年次会合	金准教授	Internal quality assurance of international collaborative programs: A checklist based on research on cases between Japanese and Asian universities



中国大学院国際教育フォーラム
(機構長と CDGDC 幹部等の会談)



日豪間ハイレベル政策対話
(政策対話出席者)

海外の機関誌等への寄稿

【2-ア）日本の高等教育および質保証に関する情報発信の整備・強化】

覚書締結機関である香港 HKCAAVQ が発行する設立 25 周年記念誌「Future Directions of Quality Assurance: Perspectives from 10 Agencies」に「Future Directions of Quality Assurance from

a Global Perspective: Japan」と題した寄稿を行い、国際化に伴う質保証の課題を示しながら、認証評価に関する検証や「キャンパス・アジア」モニタリングといった機構の取組みについて紹介した。

アジア太平洋質保証ネットワークである APQN は、アジア・太平洋地域における高等教育の質保証に関してまとめた冊子を制作している。機構は「Quality Assurance of Higher Education in Japan and NIAD-UE's International Collaborations」と題した寄稿を行い、日本における高等教育の質保証と、機構の国際連携への取組みについて紹介した。

機構英文ウェブサイトの改善・充実

【2-1）機構英文ウェブサイトの改善・充実】

日本の高等教育制度、機構の役割および事業内容について海外の関係者へ簡潔に紹介することをねらいとして、機構紹介資料（PowerPoint 版）を更新し、英文ウェブサイトに掲載した。

>> [機構紹介ページ](#)



機構紹介 PPT

また、「キャンパス・アジア」モニタリングのウェブページに 平成 26 年 11 月発行の優良事例集（英語版）である「'CAMPUS Asia' Programs in Light of Quality Assurance: A Collection of Good Practices」を掲載した。

>> [優良事例集（英語版）ページ](#)



優良事例集（英語版）

（３）共同プロジェクトを含めた海外の質保証機関やネットワークとの連携事業の実施

アクションプラン

平成 27 年度は、覚書締結機関を中心に、海外の質保証機関と連携を強め、共同のプロジェクト等を通じて相互理解・信頼関係を深める。これらのプロジェクトを通じて、我が国の評価制度全体の改善や質保証を伴った大学間交流の支援に貢献する。

また、我が国の高等教育への国際的な信頼性を高めるため、国際的な質保証活動に積極的に参画し、関係機関と協力して活動を行う。

事業実施総括

（ア）日中韓連携 ―プロジェクトの実施―

平成 25 年度に実施した 1 次モニタリングの結果を踏まえ、3 か国共同の 2 次モニタリングを実施した。実施にあたっては、共同基準、自己評価書や書面調査票の様式、共同訪問調査先の決定、報告書の作成方法等について、中韓の質保証機関と協議・調整を重ねた。

2 次モニタリングでは、プログラムを実施する 3 か国の大学で構成されるコンソーシアムに、英語での共通の自己評価書を提出してもらい、3 か国の委員による書面調査を実施した。訪問調査については、10 のうち 3 プログラムについては日中韓による共同訪問調査を、残りの 7 プログラムについては各国で訪問調査あるいはヒアリングを実施した。

今後、モニタリングの成果を共同報告書としてまとめ、国内外に発信していくこととしている。また、質保証機関向けの共同ガイドラインの検討を進めていくこととしている。

（イ）欧米やアジア太平洋との連携

海外の覚書締結機関を中心として、これまで築き上げた関係を基盤に、共同プロジェクトや人的交流、連携した取組みを展開した。英国 QAA とは、QAA が主催する年次総会（平成 27 年 6 月 11 日開催）に野上機構長が招待を受けて参加し、そこで海外の質保証機関とともに QAA 幹部との懇談を行った。また、豪州 TEQSA と、業務に関する情報・知見の交換を目的としたスタッフ交流（平成 28 年 2 月）を実施した。

さらに、マレーシアのMQAとは、機構教職員によるMQAの訪問調査へのオブザーブ参加（平成 27 年 4 月）を実施し、評価（質保証）プロセス等についての比較調査を行う合同専門委員会（第 3 回：平成 27 年 10 月）を行った。また、平成 25 年度に発足した APT（ASEAN Plus Three）質保証専門家会合では、第 3 回会合（平成 27 年 9 月、フィリピン・マニラ）に参加し、引き続き ASEAN プラス 3（日中韓）の質保証機関との交流機会の拡大を図った。

この他にも、覚書締結機関や海外の交流機関とは、APQN や INQAAHE 等の国際的ネットワークの会議をはじめ、高等教育の質保証に関する国際会議で、情報交換や連携協力にかかる協議を行い、人的ネットワークの拡大とともに、すでにある連携体制の強化を図った。

（４）国際連携にかかる戦略的・重点的調査研究

アクションプラン

平成 27 年度は、我が国の大学等における学位および質保証制度にかかる国際通用性を確保していくための戦略的・重点的調査として、1) 東アジアにおける国際的な共同教育プログラムの質を保証するための手法に関する調査および 2) 学生移動（モビリティ）に伴い国内外の高等教育機関に必要とされる情報提供事業の在り方に関する調査のまとめを行う。

各調査の趣旨および事業実施総括

（ア）東アジアにおける国際的な共同教育プログラムの質を保証するための手法に関する調査（東アジア調査）

●調査の趣旨

機構がこれまで進めてきた「キャンパス・アジア」のモニタリングの基準や実施方法は、日中韓三国にとどまらず、広く東アジアへの展開を見据えた設計としている。したがって、本調査では、モニタリングの取組みを発展的に活用し、東アジアの大学や質保証機関が、国境を越えた共同教育プログラムの質を確認・保証する際に活用し得る、実践的な手引き等の手法の開発を目指す。

●平成 27 年度（3 か年計画の 3 年目）の実施総括

これまでの調査結果を踏まえて、質保証の観点から共同教育プログラムの実施に際して必要かつ望ましい事項を中心としたチェックリストを開発し、解説等を加えた手引書（案）を作成した。また、本調査および手引書（案）の概要について、海外の高等教育関係者や質保証機関関係者が参加する国際会議等で発表するとともに、国内の大学関係者に対して手引書（案）の検証協力を依頼し、手引書（案）の改良を行った。さらに、手引書を含めた最終報告書をとりまとめ、平成 28 年 3 月に文部科学省へ報告を行った。

（イ）学生移動（モビリティ）に伴い国内外の高等教育機関に必要とされる情報提供事業の在り方に関する調査（モビリティ調査）

●調査の趣旨

国内外の学生移動に伴い必要とされる情報提供やその他支援事業の在り方について調査を行い、日本におけるナショナル・インフォメーション・センター機能の位置付けや具備すべき業務を明確にする。そのうえで、国内外の高等教育機関および関係機関にとって理想的なセンターの在り方について調査結果をまとめる。

●平成 27 年度（3 か年計画の 3 年目）の実施総括

学生の国際的な流動化を促進するにあたり、我が国の大学等が必要とする情報提供の手段や支援のあり方を検討するため、研究開発部と評価事業部国際課が連携し、本調査を実施した。平成 27 年度は、11 月 11 日に「国境を越える学生の学修履歴の取扱い」に関する公開研究会を開催した。外国の学修履歴の出願資格・入学審査に携わる大学教職員等 76 名が集まり、オランダ、豪州、日本における外国資格・学修歴評価の事例紹介や演習を交えながら、日本の高等教育に必要とされる今後の支援の在り方について議論を深めた。平成 25 年度から実施した国内外のニーズ調査、事例調査の結果、上記公開研究会の内容をもとに最終報告書をとりまとめ、平成 28 年 3 月に文部科学省へ報告を行った。

本文に出現する頭文字語の正式名称（アルファベット順）

A I M S （エイムス）

ASEAN International Mobility for Students Programme（ASEAN学生交流プログラム）

A P Q N （エー ピー キュー エヌ）

Asia-Pacific Quality Network
（アジア太平洋質保証ネットワーク）

A P T （エー ピー ティー）

ASEAN Plus Three
（ASEAN 諸国及び日本・中国・韓国）

A S E A N （アセアン）

Association of South-East Asian Nations
（東南アジア諸国連合）

A S E M （アセム）

Asia-Europe Meeting（アジア欧州会合）

C B Q A N （シー बी カン）

Cross-border Quality Assurance Network
（国境を越えた教育（クロスボーダー教育）の質保証のためのネットワーク）

C D G D C （シー ディー ジー ディー シー）

China Academic Degrees and Graduate Education Development Center
（中国教育部学位・大学院教育発展センター）

D Q R （デー クー エル）

Deutscher Qualifikationsrahmen
（ドイツ資格枠組み）

E C A （イー シー エー）

European Consortium for Accreditation in higher education（欧州高等教育アクレディテーション協会）

E N Q A （エンカ）

European Association for Quality Assurance in Higher Education（欧州高等教育質保証協会）

E Q A R （エカー）

European Quality Assurance Register for Higher Education（欧州高等教育質保証機関登録簿）

G A C （ジー エー シー）

German Accreditation Council（ドイツアクレディテーション協議会）

H C E R E S （（アッシュ）セレス）

Haut conseil de l'évaluation de la recherche et de l'enseignement supérieur（研究・高等教育評価高等審議会）

（旧）A E R E S （アエレス）

Agence d'évaluation de la recherche et de l'enseignement supérieur
（フランス研究・高等教育評価機構）

H E E A C T （ヒーアクト）

Higher Education Evaluation and Accreditation Council of Taiwan（台湾高等教育評鑑中心基金会）

H K C A A V Q （エイチ ケー シー エー エー ブイ キュー）

Hong Kong Council for Accreditation of Academic and Vocational Qualifications（香港学術及職業資歴評審局）

I E Q A S （イー カス）

International Education Quality Assurance system
（外国人留学生受入・管理力量認証制）

I N Q A A H E （インクアヘ / インクアヒ）

International Network for Quality Assurance Agencies in Higher Education（高等教育質保証機関の国際ネットワーク）

M Q A （エム キュー エー）

Malaysian Qualifications Agency
（マレーシア資格機構）

E P - N u f f i c （イー ピー ヌフィック）

（旧 Nuffic : Netherlands Organization for International Cooperation in Higher Education（オランダ高等教育国際協力機構））

N I C （エヌ アイ シー）

National Information Center（ナショナル・インフォメーション・センター）

N Q F （エヌ キュー エフ）

National Qualification Framework
（国家資格枠組み）

N V A O （エヌ ブイ エー オー）

Nederlands-Vlaamse Accreditatieorganisatie
（オランダ・フランダースアクレディテーション機構）

[英 : Accreditation Organisation of the Netherlands and Flanders]

O N E S Q A （オネスカ）

The Office for National Education Standards and Quality Assessment（全国教育水準・質評価局）

Q A A （キュー エー エー）

Quality Assurance Agency for Higher Education
（英国高等教育質保証機構）

T E Q S A （テクサ）

Tertiary Education Quality and Standards Agency
（オーストラリア高等教育質・基準機構）